

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和8年3月7日

事業所名：放課後デイサービス キートス・プラス

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	意見 (工夫している点、課題など)	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	2	0	子ども達の人数が多い時などは、活動の内容を見て混雑しないように、子ども達とスタッフの配置を考えている。	子ども達同士の動線が交わらない様に、自由時間中にスタッフを配置をしている。 スタッフの状況に応じて、活動スペースやスタッフ配置の工夫を継続していく。
	2	職員の配置数は適切である	4	3	0	個別で対応が必要になりそうな利用者が出そうな場合については、来所前に対応する担当者を決めている。	事前シミュレーションを継続し、スタッフの配置を工夫する事で支援が行き届く様にしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	2	0	段差は少ない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1	0	毎月の振り返り面談ができていないことがある。お互いの意見を聞いてたりして、児童にとってより良い支援を考えている。	スタッフの毎月の振り返りと次月の目標設定を、月間スケジュールの計画通りに実行していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	0	保護者の要望などを取り入れて支援に取り組みたい。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2	1		会報はない為、会報での公開はなし。 ホームページで公表している事をスタッフ全員に周知していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	1		業務改善については毎月のミーティングで法人内の別事業所のスタッフ同士で意見する機会がある。 次年度は事業所間での評価も実施することを検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0		
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0	アセスメントでの保護者の要望を聞き、少しでも力になれるような支援を考えている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	1	使用していない事が多い。今後は使用していく必要あり。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	利用者に合わせて、適切な活動や支援を考えている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	前回した活動などを考えながらしている。 新しいものも取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	0	長期休暇中には、放課後の時間にはできない取り組み（おでかけ、お買い物、クッキング、制作など）を実施中。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0	利用者が少しでも前向きに取り組めるような活動を考えている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	配置や動きの確認をしている。 送迎等、どの時間にどの職員がいるかも考え、配置まで決めるようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3	0	当日にはできていないが、翌営業日には振り返りを実施している。	出勤時間や送迎などの兼ね合いで実施できる状況にない為、支援当日には、振り返りは実施できていない。 翌日までに全体に共有する事を継続していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	日誌を記録しながら、その支援が最適であったかを確認している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1	0	モニタリングを行った児童発達支援管理責任者から情報共有をしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	3	0	勉強不足の所があり行っていないのが現状の為、今後勉強して実施していきたい。		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	0		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	1	0	月末などは特に利用者が学校から下校時間のお知らせなどの手紙の配布がない利用者自身に確認し、変更がないか気をつけている。	学校とは送迎の迎えが遅くなった際など、連絡がくる場合もある。逆にこちらが迎えの時間に合流できない場合もあり、その際はこちらから学校に連絡を入れている。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	3	2	医療的ケア児は現在利用なし。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	4	1		児童発達支援から放課後等デイサービスに移行する場合は、事業所からの引き継ぎを受けている。保育所や幼稚園からは情報共有が乏しい為、連絡を取り共有の機会を作る。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3	1	今年度対象者がいるため実施予定。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	5		外出などイベントの機会はあるものの、現地で交流を図る様なものではない。今後、交流までできる様なイベントを検討する。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	1	2	4		機会があれば参加を検討する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	2	1	送迎の時など、その日頑張ったことを伝えている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	3	茶話会は実施したが、ペアレントトレーニングは実施できていない。	保護者の要望の聞き取りをし、実施できるように検討をする。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1	1		
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	2	茶話会を実施している。	今年度も茶話会を実施した。実施回数が少ない為、年間の予定に実施できる様に組み込んでいく。また茶話会以外にも保護者同士が交流できる機会を創出していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1	1	会報はないが、体育館DAYや長期休暇中のイベントのお知らせを連絡している。	今後もSNS（インスタグラム）や個別連絡で発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	3		事業所の活動内容を周知していけるように、まずは地域のイベントにも参加していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	0		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。